「医師が結婚したくなるプロポーションアピール作戦！」無料レポート

成功した医師夫人が実践したメイクのツボ！

医師に好まれるメイクの極意！

■puroduced by セレブメーカーズ.com

《使用許諾書》

本契約は、セレブメーカーズ.com と貴方との間で交わされるものです。必ず最後まで熟読してください。

【第 1 章・目的】

セレブメーカーズ.com が著作権を有する本製品に含まれる情報については、本契約に基づきあなたの非独占的使用を許可するものとします。

【第 2 条:複製・コピー・二次使用の禁止】

本製品に含まれるあらゆる情報は、著作権法において保護されています。

秘匿性の高い情報ですので、著作権者に事前に書面による許可を得ずに複製・コピー等いかなる手段によっても、二次使用する事は禁止させていただきます。本製品の情報は正当な購入者個人のみが使用できるものとします。

【第 3 条:契約の解除】

貴方が本契約に違反した場合、セレブメーカーズ.com はあなたに通達無しで本契約を解除できるものとします。

【第 4 条:損害賠償】

貴方が本契約第 2 条に違反したことが発覚した場合、あなたは本契約の解除に関わらずセレブメーカーズ.com に対し違約金として、1000 万円の損害賠償を支払うものとします。

【第 5 条:使用責任】

本製品は、医師との出会い・交際・結婚に成功するための情報提供を目的として作成されていますが、成果を得られない場合や、本製品を実践した結果発生したいかなる損害に対しても、セレブメーカーズ.com は一切その責任を負うものではありません。全て実践者である貴方の自己責任で行うこととします。

セレブメーカーズ.com 代表　川島　義幸

《目　次》

《使用許諾書》..... 2

《目　次》..... 3

《はじめに》..... 4

1. アプローチに欠かせない医師のメンタリティへの理解 5

2. 女性の自己満足によるメイクの問題 7

3. 日本人女性の特徴 9

4. 化粧品への理解を深める 11

5. 無視できない界面活性剤のリスク 13

6. 医師が女性に求める美しさとは 16

7. ドクター夫人の事例紹介 18

《　まとめ　》..... 21

《製品の取り扱いについての注意》..... 23

《はじめに》

こんにちは。

私は本書「医師に好まれるメイクの極意！」を執筆した、医師との結婚専門の情報提供サービスセレブメーカーズ.com の代表・川島　義幸です。

「セレブメーカーズ.com」は 2005 年 3 月に設立し、以来 15 年に渡って活動してきました。その過程で約 750 人のドクター夫人の成婚をサポート・アシストできました。

本文でも紹介しますが私はこの仕事を始める以前、4 年程化粧品を販売していた経験があります。従って化粧品に関しては、男性としては水準以上に情報を持っていると考えています。そして 15 年前から医師との結婚に携わってきて、よく感じたのは女性側にメイクに関する知識が不足している事でした。一般的に女性のメイクは、女性側の時刻表都合・自己満足で整えられます。自分が一番美しく見えるように、という心理からですが、これがともすると行き過ぎてしまう事が少なくありません。単に行き過ぎるだけならいいのですが、何しろ相手は憧れの医師です。メイクで失敗してドン引きされたのでは泣いても泣ききれません。しかし女性が自分が美しいと思っているメイクが、医師から見ると一目で「こりゃだめだ」となってしまうケースは、これまでも複数回あります。

しかし医師のメンタリティにあった、医師が好むメイクを実証的に伝える情報は、たとえ広大無限のインターネット上であっても全くと言ってよいほど存在しません。

そこで本無料レポート「医師に好まれるメイクの極意！」を作成する事にしました。

医師の価値観や感性に合わせた、医師の好むメイクとはどんなものか？現実に医師と成婚を果たしたドクター夫人の実例等を挙げながら、医師を惹き付けるメイクの極意を具体的にご紹介していきたいと思います。ぜひじっくりご覧ください。

「セレブメーカーズ.com」代表：川島義幸

1. アプローチに欠かせない医師のメンタリティへの理解

ゼロから医師との結婚を模索する場合、相手の先生の価値観や感性に対する理解と配慮が欠かせません。それはメイクに関しても同じです。
最初はこのテーマからご案内します。

高い知性を持ち物事の本質を重んじる

医師は言うまでもなく高学歴のエリートです。幼少から勉学に勤しみ進学高校から難関の医学部・医大に進学、国家試験の最高峰・医師国家試験をパスした秀才で、社会で最も知性が高いと言っても過言ではありません。そして先生達の専門分野である医学・医療は本質を重視します。病気とは何か？どうして病気が起きるのか？けがはどうしたら治療できるのか？こうした疑問を解き明かすために、遺伝子レベルから研究を積み重ね治療法を開発し、診療に生かすのです。医師程人体に関して学術的に深い理解のある人種はいません。またこうした来歴や、日常の診療業務から形成された医師としての資質素養が、彼らの価値観や感性となり女性に足しても影響力を持つようになります。これは医師らしい医師であればあるほど避けられない事態です。

女性に対しても本質を重んじる

私は近くの大学病院の先生と懇意にしています。色黒でワイルドな印象を持つ、腕が立ち患者や首位のスタッフの信頼が厚い整形外科医の先生ですが、口が悪いのが玉に瑕。以下はその先生が、女性の容貌に関して放言したセリフです。

「女の顔やらくさ、あら、あんた、骨格と皮膚と筋肉と脂肪と肌の塩梅ばい！せーなもんで男心ば左右されてたまるもんか！」

博多弁なので標準語に翻訳すると、

「女性の顔はですね、あれは貴方、骨格と皮膚と筋肉と脂肪と肌の塩梅ですよ！そんなもので男心を左右されてはたまりません！」

となります。私はこの言葉ほど、先生達の女性に対する姿勢の表現はない、と思っています。医師としての見地から、女性の美しさとは何か？を言い表しています。

上辺だけ装っても見抜かれる公算大

知り合いの先生が言う通り、女性の要望の本質は「骨格と皮膚と筋肉と脂肪と肌の塩梅」です。一見すると身もふたもない表現ですが、これが先生達の価値観である事は否定できません。勿論、表面的な美醜だけで相手を判断する医師もいる事は事実です。しかしそういった先生であっても、心の底では生物としての女性の本質は、高度なレベルで弁えているのです。
ところが多くの女性は、医師の女性の美しさに対する理解や認識を知る機会がありません。医師が何を基準に女性の美しさを図るのか？これを知るだけでライバルから抜きんでて差別化が図れますし、相手の先生に好印象を与えるメイクを実践する事ができます。ぜひ本質にこだわる医師の価値観や感性を重視して、自分のメイクを改善・向上されるようお勧めします。

2. 女性の自己満足によるメイクの問題

前項の通り、医師は本質を尊びます。それは女性のメイクに関しても同じですが、しかし女性はその事をほとんどわかっていません。ここに大きな問題が生じています。
女性の自己都合や自己満足だけでのメイクはリスキーです。

メイクは女性の自己都合や自己満足が主流

医師との婚活アプローチに限らず女性のメイクは、女性の自己都合や自己満足だけ施されています。これは世の中の女性の 99%に言えるでしょう。
それがどういう結果をもたらすか？以下はネットに会った投稿記事です。

「合コンで知り合った女性と親密になり、将来を考えるようになりました。そしてホテルに行ったのですが、その時に愕然としました。メイクを落としたら別人が現れたのです。派手目な化粧だなとは思っていましたが、眉が無く目が二回り位小さく、肌の色がくすんで唇の色も健康的ではありませんでした。だまされたような気がして、結婚を躊躇しています。こんな自分は変でしょうか？」

相手の女性は悪気はなかったはずです。ただ自分のやりたい・自分が理想としているメイクをしたかった。しかしメイクを落としたら別人では・・・。しかしここまで行かなくても、メイクを落としたら結構な変化があるケースは少なくないんじゃないでしょうか。

女性の一方的な思いがもたらす弊害

化粧を落としたら別人が出てくる。これは男性にとってかなりの衝撃です。

確かに現在の男性は、女性の化粧に関して造詣が深いとは言えません。しかしそれでも別人が出てくるのでは、動揺は避けられないでしょう。ネットではもっと深刻なケースも散見されました。中には化粧どころではなく

「もともと一重瞼だったものを二重に整形していた」

「顔の輪郭をシャープにするために、あごの骨を削っていた」

「豊胸手術を行い胸にシリコンを挿入していた」

等と言うのまで。これらの事実を男性が知ればどう思うか？恐らく女性はそうした配慮や意識無しに、自分の化粧や整形を行っているのです。

化粧の本質とは

そもそも現代社会における化粧の本質とは、美しく装うための一助であるはずです。決して主役ではなく脇役であるべきなのです。そしてもう一つ。化粧の本質は、その人物の価値観や感性の表れでもあります。上記のような整形手術や濃いメイクを好む女性は、そうしたいという価値観があるから実行するのです。そこには女性の自分の容姿容貌への捉え方や願望が現れています。さらに踏み込んでいうなら、外見に強いこだわりを持っている証です。そしてそれは女性本人だけの「思い込み・先入観・固定概念」であり、第三者は関与できません。口述しますが、実際に医師と結婚したドクター夫人のメイクも、それぞれの女性自身の価値観や感性の表出であり、それを相手の先生は好ましいと感じるからこそ結婚に至りました。

皆さんもメイクする際には化粧の本質をしっかり認識し、女性だけの「思い込み・先入観・固定概念」だけで判断しないよう、十分留意してください。

3. 日本人女性の特徴

日本人は生物学的に、他の人種・民族に見られない特徴を持っています。しかしこの特徴も一般的にはほとんど注目されていません。次に日本人の特徴と名句の関係について考察してみたいと思います。

日本人の生物学的特徴を決定した要因

ここで述べる日本人の生物学特徴は、日本列島の地理・自然と深く関係します。
日本国民は四方を海に囲まれた、温帯地域にある日本列島に居住してきました。
日本列島は地質学的に平野が少ない国土に 3000mを超える山岳地帯がそびえており、日本海・太平洋からの湿った空気がこの山岳地帯にぶつかって多量の降雨をもたらします。このため日本は温暖かつ湿潤な風土を形成してきました。つまり我々日本国民は、温暖湿潤で四季の明確な国土で長い年月を過ごしてきたわけです。
加えて日本人は縄文時代以降、農耕文化が発達しました。そのおかげで日本人は数千年前から米を主食とし、野菜や穀類・豆類などを豊富に摂取してきました。肉類を積極的に食べるようになったのは明治維新以降の、最近 150 年にすぎません。こうした農業に根差した食習慣も日本人の生物学的特徴を形成してきたのです。

日本人の肌の質

今回取り上げる日本人の生物学的特徴とは、日本人の皮膚です。日本人の皮膚は表面の角質層細胞が水分を多く含んでおり、しっとりとした絹目のような皮膚なのです。

さらに米や野菜中心の食習慣によって、老廃物の排出が少ないため毛穴も閉じており体臭もほとんどありません。

私は化粧品を販売していたころ、営業研修で各国の女性の皮膚表面の顕微鏡写真を見る機会がありました。日本人女性と他の民族の女性の皮膚の差は歴然でした。

韓国・中国・ロシア・ドイツ・アメリカ・ブラジルと言った国々の女性の皮膚表面の写真を見ましたが、どこにも日本人の持つ絹目のようなきめ細かい、角質層に潤いのある皮膚は見られませんでした。その原因は上記の国々が大陸性の雨の少ない乾燥した気候であるため、どうしても皮膚も乾燥してしまう事。さらに食習慣が肉類を積極的に摂取するため、老廃物が多くなり毛穴が開き気味になってしまう事によるものです。ついでに体臭もきつくなってしまいます。

日本人女性とメイク

こうした科学的・合理的・客観的根拠に基づいて、日本人の肌を分析してみると、いかに日本人女性の皮膚が自然のままで美しいかが、お判りいただけると思います。

無理してファンデーションで整えなくても、日本人女性の皮膚はそのままでも十分に奇麗なのです。すっぴんは裸を見られるより恥ずかしい、と言う人もいますが、そんな事は絶対にありません。生物学的に見て日本人女性の皮膚は、世界で最も美しいと言っても過言ではありません。（ついでに言うと、フレグランスも日本人には必要ありません。中国人・ロシア人や欧米人など大陸系気候で肉類を豊富に摂取する人々は、皮膚からの老廃物の排泄量が多く、また毛穴が開いているために体臭がどうしてもきつくなる。フレグランスはきつい体臭を隠す事が第一目的なのです。）

そしてこれらの事情は、医師も学術的に理解しています。日本人女性の皮膚が自然でも美しく、化粧の必要性が低い。残念ながらこの事も一般的には知られていないのが実情です。

4. 化粧品への理解を深める

次にメイクに使用する化粧品について考えてみたいと思います。

ここでも化粧品の本質にこだわり、化粧品の性質や機能についても検証してみたいと思います。普段あまり考えないテーマですが、医師との結婚においては重要です。

知られていない化粧品の本質

化粧品の本質とは何か？それは合成化学物質である、と言う事です。現在日本で販売されている化粧品で天然そのままの製品は存在しません。化粧品は、「医薬品、医療機器等の品質、有効性及び安全性の確保等に関する法律」（縮めて「薬機法」）という法律によって、厚生労働省から厳格に管轄されています。

自分で勝手に化粧品をこしらえて販売すると、「薬機法」違反として逮捕されます。

そして「薬機法」では化粧品の衛生や有効期間・保存方法も定められているため、化学保存料を使わざるを得ません。また化粧品の成分そのものも天然由来の成分は少なく、多くは人工的・化学的に作り出されているのです。

化粧品の中には「自然由来成分配合」「自然派化粧品」と呼称しているものもあります。しかし成分表をしっかり見れば、その大部分が化学合成物質である事が判ります。

現在「薬機法」で管轄されている化粧品で、自然界に存在している成分だけで成り立っている製品は存在しません。

体にとっては異物でしかない

一般的には強く認識されませんが、化粧品は 100％が化学合成物質である。
そして人間は生物です。生物にとって、自然界に存在しない化学合成物質は異物でしかありません。従って使用方法を間違うと人体の免疫機能が働き、異物を排除しようとする免疫反応（多くは炎症）が起きます。これがアレルギーの一形態です。
食べて体に良い化粧品、と言うのを聞いた事がありますか？ありませんよね。化粧品は体内に入ると問題を起こす異物なのです。もし化粧品が 100％天然であれば、体内に入ってもそこまで問題にはならないはず。そしてそうした異物を、女性達は有難がって皮膚に塗布している。これも動かしようがない現実です。
そして繰り返しますが、化粧品は化学合成物質であり、人体には異物である。この理屈も医師は学術的に理解しています。

医師から見た化粧品とは

化粧品は様々な化学成分を混ぜ合わせ製品化します。しかしそのままでは混ぜ合わせられない成分も存在します。そうした場合に使われるのが成分と成分の堺目（界面と呼びます）を活性化させる化学物質、界面活性剤が使われます。つまり化粧品は何から何まで化学のお世話になっているわけです。次項で触れますが界面活性剤も、人体にとっては有害である場合が少なくありません。
そしてこうした事情も医師は熟知しているのです。その医師から見て、せっせとメイクする女性がどう見えるでしょう。メイクを落とすと別人が現れる、なんていうケースでなくても良い印象を与えるとは思えないのでは？と考えられますよね。
こうやって化粧品に対して理解を深めれば、医師が好むであろうメイクがどんなメイクか、大体想像つくのではないでしょうか。

5. 無視できない界面活性剤のリスク

ここでちょっと踏み込んで、界面活性剤についてお伝えしえときたいと思います。
メイクの本質を考える時、界面活性剤は切っても切れない関係があります。そして大半の女性は、界面活性剤に関して殆ど知識がない。これが現実ではないでしょうか。
一度、界面活性剤について、じっくり考えて見られるようお勧めします。

界面活性剤の恐ろしさ

化粧品に含まれる「界面活性剤」（正しくは合成界面活性剤）を調べてみると。
インターネットフリー百科事典「Wikipedia」によると「界面活性剤」とは、

「界面活性剤（かいめんかっせいざい）とは、分子内に水になじみやすい部分（親水基）と、油になじみやすい部分（親油基・疎水基）を持つ物質の総称。」

と定義されています。
分かり難いのでもう少しかみ砕くとここで扱う「界面」とは、表面ともいいます。界面（表面）とは、2 つの性質の異なる物質の境界面の事。 2 つの混じり合わない物質の間には、必ず界面が存在します。
例えば、洗濯中の洗濯機の中を考えると、水と空気の界面、水と汚れの界面、水と衣類の界面、汚れと衣類の界面、洗濯槽と水の界面、 のように、たくさんの界面が存在しています。

界面活性剤とは、このような界面に働いて界面の性質を変える物質のことを言います。

水と油は、混じり合わないものの代表のように言われています。 混じり合わない水と油の間には界面が存在していますが、界面活性剤は、この界面に働いて界面の性質を変え、水と油を混じり合わせることができるのです。この働きで、パーマ液や化粧品の肌や髪の毛への浸透力を高めるのです。

しかし界面活性剤は自然界には一般的に存在せず、現在使われている界面活性剤は化学的かつ人工的に合成されたもので、強い毒性を含むのです。

この毒は経皮毒と呼ばれる種類です。

健康にも高いリスクがある

経皮毒とは、その名の通り、皮膚（経皮）を通して、体の中に有害化学物質（毒）が浸透します。

通常、皮膚構造は３層になっており、外敵や異物の侵入を防いでくれるのですが合成界面活性剤は皮膚バリアである角質層を破壊し、そこから界面活性剤を構成する有害化学物質が浸入し、外皮の下にある真皮の毛細血管まで浸入し、血液に乗って全身を巡る事になります。

また、真皮の下には皮下組織があり、ここは脂肪が多く含まれているため、この脂肪に経皮毒性のある有害物質が蓄積することになります。

皮膚から入った合成界面活性剤のような化学物質は 10 日かかっても、10％も排出されないと言われており、ほとんどは皮下組織に残留し、体内に蓄積されます。これがどういうダメージに繋がるか？

例えばヘアカラーを行う際、美容師さんは手袋を付けます。あれは界面活性剤によって手が荒れてしまうからなのです。その手が荒れてしまうようなものを塗り付けるわけですから、溜まったものではありません。あるいは化粧品でもたまに肌荒れする場合があ

ります。これも原理は一緒です。最近は界面活性剤の安全性も高まってきていますが、それでも有害であることには変わりありません。

合成界面活性剤によるダメージを医師は学術的に熟知しています。本質にこだわる医師であれば、合成界面活性剤の入ったパーマ液やヘアカラー、化粧品は避けるのが賢い女性と認識される可能性が高いのです。

つまり医師の価値観から言って、厚化粧すれば、それだけで敬遠されかねないリスクが存在すると認識しておきましょう。

華やかに見える化粧品にも界面活性剤が入っています。

こんな食卓には独身の先生は縁がありません。

6. 医師が女性に求める美しさとは

ここまでご覧になって医師が女性にどのような美しさを求めるのか？どういうメイクが相手の先生に好印象を与えられるのか？だいぶんお判りになってきたのではないでしょうか。そこでここで医師が女性に求める美しさについてまとめておきます。

上辺だけでなく本質が理解できている美しさ

まず医師はその成育過程や日常の診療業務、そしてそこで培われた価値観や感性から物事の本質を尊びます。従って女性も本質にこだわり、理解できた美しさを実践していれば医師らしい医師である人物なら印象は悪くならないはずです。

具体的には、自然・地理的要因で日本人の皮膚がきめ細かく潤いに満ちている事・コメや野菜中心の食習慣によって体臭が少ない事・化粧品が「薬機法」によって管轄されており内容はほぼ 100％化学合成物質である事・化粧品の中には界面活性剤等人体に有害な物質も含まれる場合がある事。これらを理解した上で、化粧品を使う。

それは必然的にけっして厚化粧にはなりません。ナチュラルメイク・薄化粧となって表れるでしょう。勿論フレグランス等も積極的に使用しないはずです。後述する成功したドクター夫人達も、まさにこれらに該当しています。

逆に厚化粧でないと満足できない医師がいたとしたら、その資質や素養に問題がある可能性が高いと思われます。

知性を表した美しさ

日本人の皮膚の事情を理解していたり、化粧品が化学合成物質である事を周知している事は、それ自体知性の表れでもあります。メイクではありませんが一重を二重にしたり、顎の骨を削ったり、胸にシリコンを入れるような美容形成は、人体の本質を弁えている医師であれば推奨はしません。美容形成手術自体は高い知性が必要になりますが、手術のリスクや後遺症を考えれば本当の意味の知性とは言いかねます。
これと同じように厚化粧も、皮膚へのダメージや化粧品の成分を考えれば、聡明な印象は与えないはずです。こうした事例とは反対の自然の皮膚を大事にするナチュラルメイク・薄化粧は、本当の意味での知性の表出でもあり、相手の先生に与える印象はかなり良くなるのではないでしょうか。

凛として毅然とした美しさ

医師が女性に求める美しさの要素として、凛として毅然とした美しさがあります。日本人の皮膚のきめ細かさや美しさを深く認識し、化学合成物質である化粧品の本質を理解し自信を持ってナチュラルメイク・薄化粧を行えば、それだけでも凛とした女性・毅然とした女性を表現できます。逆に厚化粧でメイクを落とすと別人になったり、瞼や顎や胸に美容形成手術を受けていれば、自信を持って相手の先生に退治できなくなります。
何故ならそれらは、コンプレックスを隠すためのカモフラージュでしかないからです。
先生達は自分の、医師としての資質や素養に絶対的自信を持っています。また医療の最終責任者として、表面上そうは見えなくても常時緊張感を持ち凛として毅然と振る舞います。本質を弁え自信を持って、凛として毅然としていればナチュラルメイク・薄化粧であっても全く問題にならないはずです。

ぜひここで述べたロジックを理解いただき、ご自分のメイクに生かしてください。

7. ドクター夫人の事例紹介

それでは最後に、実際に医師と結婚されたドクター夫人の化粧品に関する事例をご紹介します。ご覧ください。

サブリナさん（37 歳・夫は内科勤務医・結婚 7 年目）

私は自宅では全く化粧品をしません。すっぴんです。勿論したい気持ちはあるのですが、子供が 3 人いて全員就学前で自宅にいるため、その面倒を見るのに精いっぱい。とてもメイクまでするゆとりがありません。でも主人は理解してくれていて、「夢中で子育てしている君は綺麗だと思うよ」と言ってくれます。旦那様のためにも身綺麗でいたいのはやまやまなのですが、ついつい甘えてしまうのでダメですね（ノロケてしまいました）買い物に出かける時や旅行に行く時は、さすがに少し化粧しますが、口紅とファンデーション程度で済まします。ともかく先生は、私のように子育て中などのちゃんとした理由があれば、すっぴんでも問題ないと思います。

ジンジャーさん（34 歳・夫は整形外科勤務医・結婚 3 年目）

結婚後も臨床検査技師の仕事をしているので、一応メイクはしますが最低限です。
ネイルもしませんし機会に影響があるのでピアスや指輪もしていません。
その代わり滅多にないのですが夫と出かける時は、ちょっぴり念入りにメイクします。そして夫も「良く似合うよ」とは言ってくれますが、普段もそうしろとは言いません。濃い目のメイクは好きではないようです。私はナチュラルメイクが大半なので、ほとんど気にな

りませんが、普段からメイクを作りこむ人は、相手の先生の好みに注意した方がいいと思います。

卯月さん（33 歳・夫は総合内科勤務医・結婚 4 年目）

結婚前に OL をやっていた時は、カッチリメイクをしていましたが、夫に会った際に「化粧を取ったら別人、とかじゃないよね？」と言われたとき、川島さんが言われたようにお医者さんは本質を大事にするんだと、ギクっとなって、それからは化粧をだんだん控えめにしていきました。だから結婚式の時も同僚から「もっと作りこめばよかったのに」と言われました。でも私は後悔はしていません。結婚式は一過性のイベントで、結婚生活の方がはるかに大事ですから。今もメイクは控えめです。でも旦那は何も言いませんし、私も満足しています。

アメジストさん（42 歳・夫は内科開業医・結婚 5 年目）

化粧は口紅と化粧水程度で、殆どすっぴんに近いですね。クリニックのスタッフや取引先の人とも会うので、もっと作りこんだ方がいいのでしょうけど。夫も結婚前から化粧品の事で何か注文があった事はありません。その代わりパーティの時やイベントに参加した場合等はメイクしますが、それも濃い方ではありません。ファンデーションをはたいて目元を整えるくらいで済ませます。医師会のご婦人たちも、厚化粧の方は何人かいますが大体は私と同じようなナチュラルな化粧の人が占めています。特に医師会会長の奥様は私と同じようなすっぴんに近いのですが、物腰や言葉遣いに品があって何とも言えない洗練された雰囲気で憧れています。その医師会長夫人に勧められて 2 年前からアロエジュースを飲むようになりました。これを飲むと肌がプルンプルンになります。化粧するよりこっちの方が効果が高く、お勧めです。

タチアナさん（44 歳・夫は皮膚科勤務医・結婚 9 年目）

自宅にいる時は全く化粧しません。化粧するのは出かける時だけですね。夫には結婚前から、「君は肌がきれいだから化粧しなくても全然大丈夫」と言われています。私はアレルギーがあって肌に合わない化粧品は受け付けないので、口紅も成分を確かめて買わなければなりません。でもそれが功を奏し夫との出会いに繋がりました。
結婚して夫の友人（勿論医師）の奥さんとも会う機会がありますが、皆さん薄化粧の方ばかりですね。ですから助かっています。メイクが決まっていないと先生とは結婚できない、等と言う事はありません。それよりも内面性で一致できるか？こちらの方が大事だと思います。

アマーリアさん（57 歳・夫は内科開業医・結婚 5 年目）

私は普段は殆ど化粧しません。以前保育士をやっていて、子どもと接するにのに化粧品どころではありませんでした。主人と出会った際も、薄化粧でした。でも主人はそれが良かったと今でも言います。自慢ではありませんが、20 代から毎朝無農薬の人参やキャベツとバナナを合わせた野菜ジュースを飲み、納豆とヨーグルトを欠かさず食べていたので肌は荒れていませんし、この年でシミ等も殆ど目立ちません。
主人の元奥さんは厚化粧だったそうですが、そのため肌荒れがひどく、それを隠すために厚化粧するという悪循環だったそうです。「化粧しなくても肌が美しければいいんだなあ、と君を見て思った」とも言ってくれます。さすがにコンサートや旅行に行く際には少しメイクしますが、それもナチュラルを心がけています。若い方にもぜひ体内からお肌を綺麗にするようにお勧めしたいですね。

《 まとめ 》

「医師に好まれるメイクの極意！」を最後までご覧くださり、ありがとうございました。

女性の自己都合や自己満足でメイクを施しても、必ず相手の先生が気に入るとは限らない事がお分かりいただけたのではないでしょうか。

私はこの仕事を始めてから、ゼロからの医師との結婚はメイクに限らず「相手の立場に立ったスタンス」が重要であると確信してきました。相手の先生が興味を持ち、その気になって動き出せば女性は黙っていても結婚へオートマチックで至ります。今回事例で挙げさせてもらったドクター夫人達も全員、彼女達が格段の行動をとってないにもかかわらず、相手の先生が向こうからその気になって行動しあっという間に結婚が実現しました。勿論ドクター夫人達の内面性が優れていたのも事実ですが、それだけではなく記事を読んでいただいてもお判りのように、結婚前からメイクもナチュラルで中にはすっぴんに近い人もいます。医師も人間である以上、女性の外見にもある程度こだわりを持つのです。紙面の都合で掲載していませんが、成功したドクター夫人達の中で私の知る限り濃いメイクを常用している人はいません。医師は物事の本質を大事にする。化粧はあくまでも美しさを引き立てる脇役であって、主役ではない。また化粧品そのものが異物である。こうした化粧品の本質を捉えているから、厚化粧の女性を積極的に好まない。と言うのが先生達のメイクに対する認識なのです。

そして先生達の本質を尊ぶ認識は、女性の外見全体にも共通します。女性の身長や体重と言ったプロポーションに関しても、先生達は一定のこだわり・好みが存在するのです。しかしメイクと同様に、医師がこだわる・好む女性のプロポーションに関する情報は皆無に近いのが現状ではないでしょうか。そこでセレブメーカーズ.com がリリースしたのが「医師が結婚したくなるプロポーションアピール作戦！」です。

ホームページ URL：http://bit.ly/2pyQQ3Q

ぜひお手元においてご活用ください！

最後に、本書のデータにご協力いただいたドクター夫人の皆さんに、心からの謝意を表してまとめの言葉とさせていただきます。

皆さんの健闘と成功を心から祈念いたします！

2020 年 6 月 15 日

セレブメーカーズ.com　川島義幸

《製品の取り扱いについての注意》

「これが医師に好まれる性格だ！」は情報テキストです。その本質は情報であり、価格はこの情報の対価です。貴重な情報ですから取り扱いには十分注意ください。

特に以下に挙げた点をしっかり認識していただきたいと思います。注意をおろそかにした結果生じた損害については、いかなる場合でもセレブメーカーズ.com は一切責任を負いかねます。

【管理は自己責任】

IT 社会は自己責任が問われます。情報テキストの管理は、細心の注意を払ってください。

・ダウンロードしたファイルは PC 等に確実に保存する。

・可能であれば保管フォルダにパスワードでセキュリティを施す。

・自己紹介や故障で喪失した場合に備えてバックアップを取っておく。

【必ずバックアップを】

特に電子ファイル版の場合、絶対にバックアップを取っておいてください。

過去、故障や事故でダウンロードしたファイルを喪失したケースが少なくありませんでした。

繰り返しますが支払ったお金は情報の対価です。その情報の管理は、皆さんに任せられます。私は他の人の責任を取る事はできません。PDF をダウンロードしたら、直ぐに USB メモリや DVD・外付けハードディスク等のメディアに確実にバックアップを取っておいてください。可能であれば、バックアップは複数取っておかれる事を強くお勧めします。

「医師が結婚したくなるプロポーションアピール作戦！」無料レポート

成功した医師夫人が実践したメイクのツボ！

医師に好まれるメイクの極意！

2020 年 6 月 18 日発行

セレブメーカーズ.com

発行責任者:川島義幸

〒814-0612

福岡県福岡市早良区星の原団地 55-503

℡＆fax:092-834-7527

【URL】https://bit.ly/2QWoDPh

【Mail】info@selebmakers.com

■puroduced by セレブメーカーズ.com